

水辺の整備により観光客が増加しています。

もがみがわ

- 最上川の舟運で栄えた歴史的な地域資源を活用し、川沿いの散策路や渡河施設(フットパス)整備により、山形県長井市の**新たな観光ルートを開発すると共に、町の活性化に貢献。**
- JR東日本のCM(大人の休日倶楽部)でも紹介されるなど、**観光客の増加につながる。**

JR東日本CM(大人の休日倶楽部)で紹介された長井の施設！



出演: 吉永小百合さん(写真提供: JR東日本)

のろがわ 野呂川堤外水路に渡河施設を整備(フットパス)



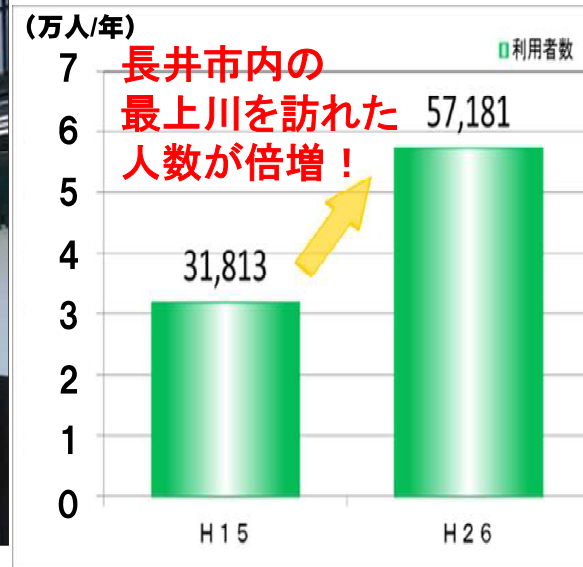
町なか水路への導水や散策路(フットパス)の整備により水辺のまちを再生



古くから愛される最上川の景観を活かし、散策路を整備(フットパス)



舟運で栄えた旧商家などを開放



※フットパスとは、「歩くことを楽しむための小みち」のこと。最上川では「木道」や「じゃり道」で小みちをつくり、小川は「木橋」や「とび石」で渡ることができます。

ダムからとった「ふくしまの水」が世界に発信されています。

- 福島市の水道用水は、阿武隈川より取水していたが、平成18年完成の摺上川ダムから取水することで、**水質が改善**。
- 平成19年に福島市は水道水を「ふくしまの水」としてペットボトルに詰め、7年間で累計85,260本を販売しており、国際的な品質評価コンテスト「モンドセレクション2015」で**金賞受賞**。

モンドセレクション2015
 ≪金賞受賞≫



水道水では
 東北初の金賞受賞！

「ふくしまの水」発売開始から
 累計85,260本を販売！

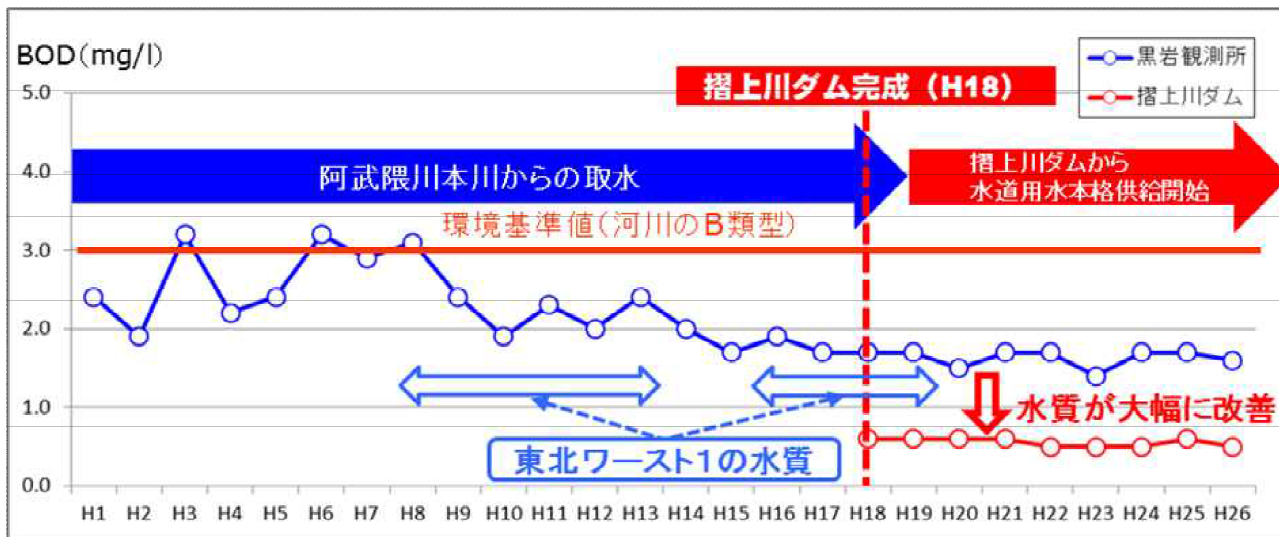


ふくしまの水道水は、
 水質環境に恵まれた
 深い山々が育む清流「摺上川」を
 水源としております。



(出典：福島市水道局HPより)

摺上川ダムを水源として福島市を含む3市3町の約40万人に水道水を平成19年から本格供給

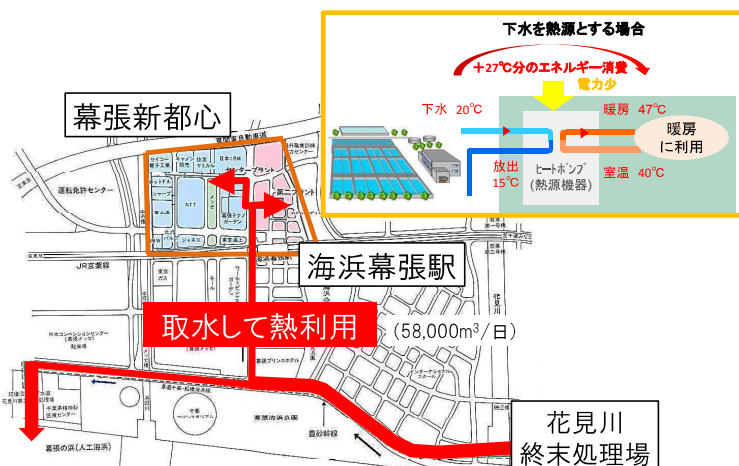
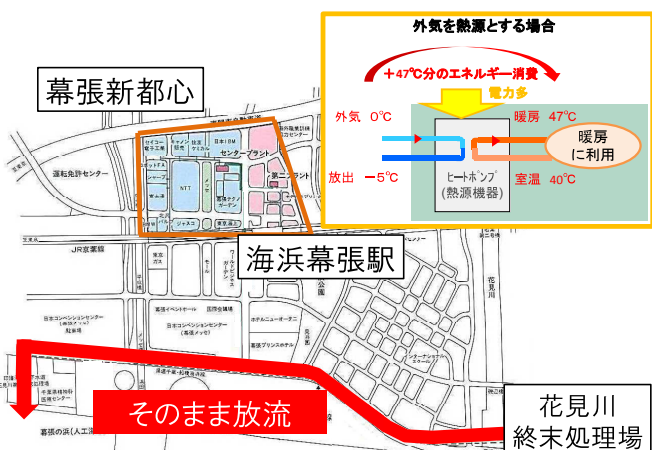


下水の熱で省エネビジネス



● before

▶▶▶ ● after



下水の温度は外気に対し年間通して安定。この温度差を空調・給湯に利用、省エネ・省CO₂効果を発揮

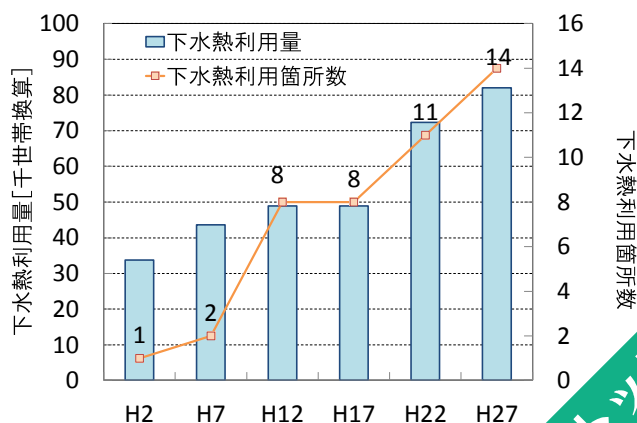
千葉県幕張新都心では、終末処理場から放流されていた下水処理水を途中で取水、地域冷暖房プラントに導入し、14施設での冷暖房・給湯熱源として利用。

下水熱の活用により、CO₂削減をするとともに、年間約1億円の経費削減効果※

※業務用冷水についての東北・関東地区における地域熱供給事業の平均単価と幕張新都心における販売価格の差額

全国における下水熱の利用状況

- 下水は都市に豊富に存在するエネルギー鉱脈
- 全国では14箇所です約8万世帯分の熱エネルギーを供給
※国土交通省試算



ストック効果

水辺が生み出す大阪のエネルギー！



道頓堀川(大阪府)

before

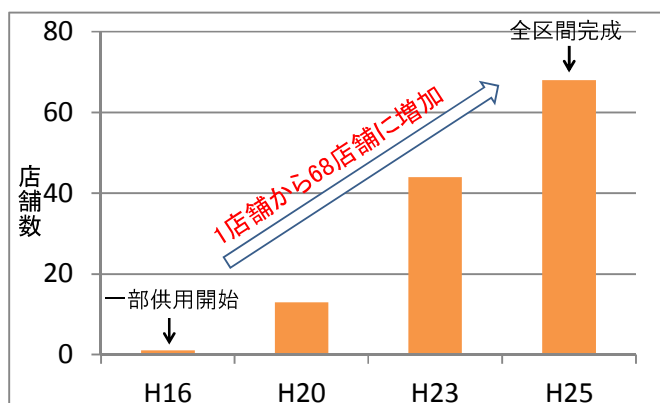


after



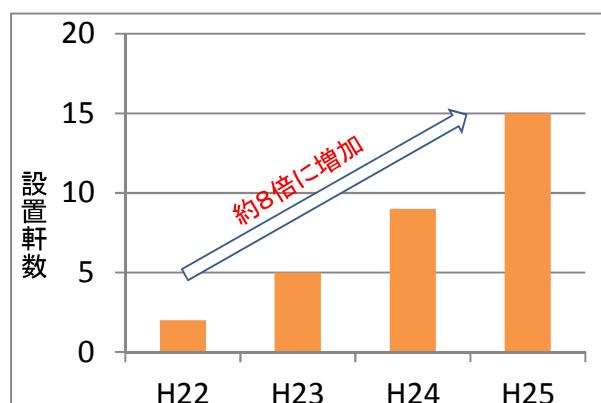
- 都心に残された貴重な空間に、「水の都大阪の再生」のリーディングプロジェクトとして、遊歩道(とんぼりリバーウォーク)整備
- これを契機に川に背を向けていた店舗が、川側に入り口を設置
- 全国で初となる民間事業者による遊歩道の管理運営を実施し、イベントの開催やオープンカフェの誘致などさらなる賑わいを創出

入口が川側を向いている店舗数



※出典：大阪市

オープンカフェ設置件数



※出典：大阪市

ストック効果

再生から共生へ 円山川はコウノトリと共に



円山川直轄河川改修事業(兵庫県)

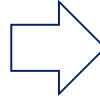
● before



● after

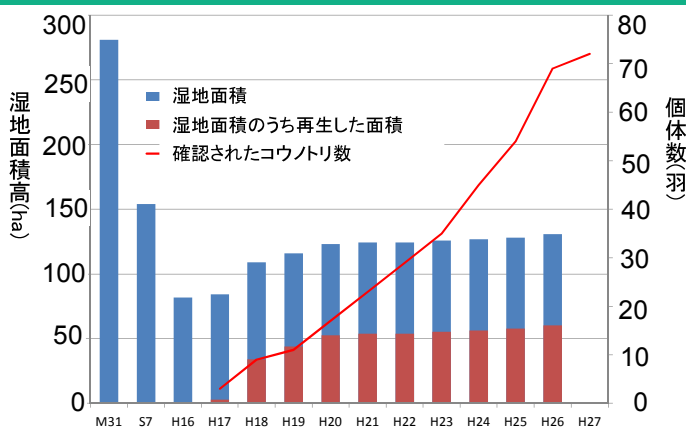


洪水に対応できるように
河川敷の掘削

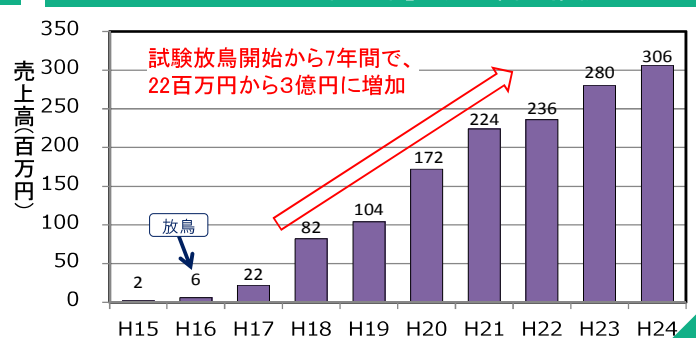


- 円山川では、平成16年の台風により甚大な被害が発生し、緊急的に改修事業を実施
- 一方で、円山川は天然記念物コウノトリの日本最後の野生生息地であったため、地域が一体となって野生復帰に向けた取組を推進
 - 河川改修では、河川敷を浅く広く切り取ることで、湿地を再生
 - 周辺の水田ではコウノトリの餌となる生き物を育む無農薬、減農薬農法を採用
- その結果、訪れるコウノトリの増加に加え、ブランド米「コウノトリ育む米」など高付加価値により経済波及効果を発揮

円山川の湿地面積の推移と野外にいるコウノトリの数



「コウノトリ育む米」の売上高の推移



ストック効果

水質改善で 松江に新たな観光名所が誕生!!



松江堀川浄化事業(島根県)

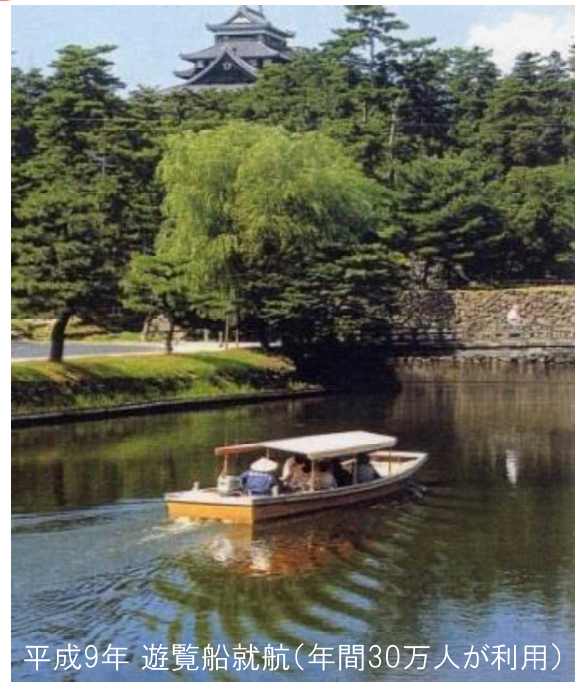
before



昭和40年代
水質汚濁が深刻な堀川



after

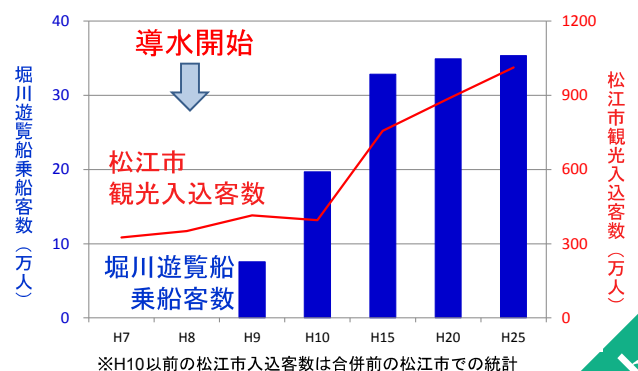


平成9年 遊覧船就航(年間30万人が利用)

- 堀川の水質改善を図るため、平成8年から宍道湖の水を堀川へ導水する事業を開始、あわせて下水道整備や底泥浚渫を引き続き実施
- 平成9年には、堀川遊覧船が就航し、年間利用者約30万人規模の観光スポットとして定着
- 遊覧船の案内を高齢者の船頭が行うなど高齢者の雇用対策や生き甲斐づくりにも貢献(シルバー船頭さん:66人(うち女性10人))
- さらに、宍道湖湖岸の夕日スポットの整備や松江城と宍道湖を結ぶバスの運行により、周遊観光を促進



松江市観光入込客数と堀川遊覧船乗船客数の推移



ストロウ効果

水の都ひろしま 集い安らぐ水辺空間の創出



元安川親水護岸(広島県)

● before

● after



整備前の状況(昭和63年)



親水テラス等
の整備



整備後の状況(平成14年8月)

世界遺産原爆ドーム前や平和記念公園を流れる元安川において、親水テラス等の整備により、「水の都ひろしま」にふさわしい風景を創出

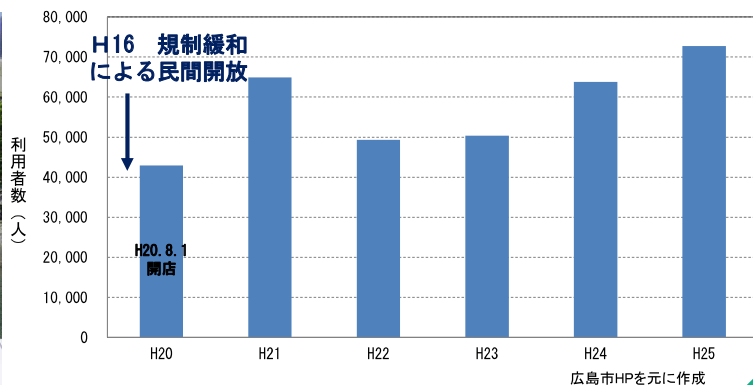
河川空間の利用の規制を緩和し、オープンカフェを常設し、平和記念公園の来訪者に憩いや交流の場を提供。利用者数は7万人に

元安川親水テラスの活用



水辺のコンサート(平成18年5月)

オープンカフェ利用者の推移



オープンカフェの利用者数が大幅に増加

ストック
効果

蘇った紫川人々が集う都市の「顔」に！



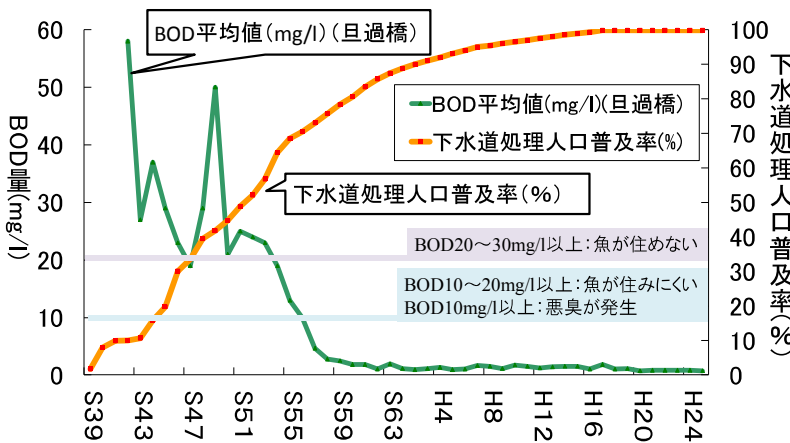
● before

➡➡➡ ● after

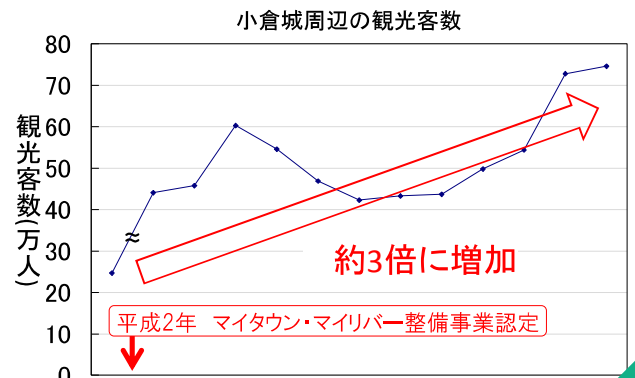


- 紫川の河川改修にあわせ、川を中心とした一体的なまちづくりを推進し、九州の玄関にふさわしい都市の「顔」としての水辺空間を創出、北九州市は、治水安全度を向上させ環境の街へ
- また、紫川は、以前死の川と呼ばれていたが、下水道処理人口普及率の増加もあり、水質は改善。
- 約2,000億円以上の民間開発の誘発や、観光客数が大幅増加と地域が活性化

紫川の水質と下水道処理人口普及率(平成25年度末)



紫川と周辺の整備事業効果



ストック効果

下水道がよりよい食を作ります。

- 佐賀市の下水処理場において地域の食品工場が発生する副産物と**下水汚泥を混合**し肥料を製造。
- 海苔養殖に配慮し、**処理水の栄養分を季節によって調整**して、海域に放流。
- **生産者や消費者(農業・漁業従事者)から好評**(うまみ・甘み・耐虫性の向上)。

佐賀市の取り組み概要



処理水の活用事例

海苔養殖に配慮し、成長期の冬に栄養塩を多く供給

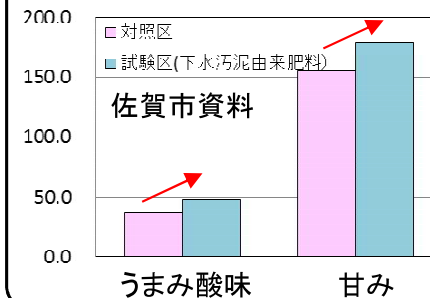


汚泥の活用事例 (肥効特性)

アスパラについて、うま味・甘み(アミノ酸)等の成分が増加傾向との報告が有



アスパラのアミノ酸含量(mg/dl)



生産者・消費者の声

生産者



大きく育って驚いた。甘くておいしい健康野菜を食べてみて下さい。
(佐賀市資料より)

レストランオーナー



丸ごとローストした玉ねぎは「一回使うと他の食材が使えないほど甘い」。
イタリアンレストラン「ピッツェリアアロータス」(福岡市中央区)